

JCHO 福井勝山総合病院 地域協議会 第 14 回 議事録

開催日 令和 4 年 11 月 4 日 (金) 13 : 00 ~ 14 : 00

開催場所 病院 2 階講堂

出席者 高木委員、西委員、田中委員、松田委員、杉平委員、伊藤委員、須藤委員

欠席者 小林委員

院長挨拶の後、次の議題について協議した。

1. 病院機能評価受審 (更新)

令和 4 年 7 月に病院機能評価の更新受審をしたことについて説明を行う。

2. 新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルスワクチン接種、新型コロナウイルス検査数、新型コロナウイルス入院患者数について当院の状況の説明を行う。

【ご質問】

外部委員 Q : 第 7 波では在宅での療養が増えたと聞きますが、新型コロナウイルスの入院については行政による判断になるのか患者の希望によるものなのか基準はどのようなものなのでしょうか。

当院委員 A : 今は少し状況が変わってきていますが、9 月までは県の入院コーディネートセンターにて、十分な聞き取りを行い判断し入院先を調整していましたので、比較的適切であったと思います。当院においても入院コーディネートセンターより依頼があった際には入院を受けておりました。当院では奥越地区の方の入院が多かったですが、状況によっては丹南や福井市など他の地区からの方の受入れも行っていました。

外部委員 A : 入院のトリアージについて 10 月 20 日まで県の入院コーディネートセンターの医師が交代で務めていました。医師の人数が多いわけでは無くかなり頻回であったことから担当医師にかなりの疲弊感があったことから撤退していただき、10 月 20 日からは保健所がその役割を担っています。また、在宅にするのか入院にするのかの最初の判断は保健所が行っています。県の基準よりは、かなり軽症の段階から入院コーディネートセンターに繋げるようにしています。入院コーディネートセンターでは保健所の判断により入院が必要な方をどこの病院に入院させるかを調整されていました。入院については福井勝山総合病院にも多く受け入れていただいています。第 8 波では自宅療養も重要になってくると考えます。保健所が持っているサチュレーションの

機械を市と連携し貸し出すなど行政同士で連携し住民の方のご理解も必要と
なってきますが、病院に負担をかけない地域の医療資源を守る仕組みづくり
も保健所の役割と考えており、近々ご相談させていただきたいと思います。

外部委員Q：新型コロナウイルスの病床に余裕はあったのでしょうか。

当院委員A：当院では第7波時に関しては患者数が多く当院での対応も以前に比べ少し制
限せざるを得ない時期もありました。ただ、入院コーディネートセンターにて
他地域へ入院調整を行われており、その点については何も心配なかったと思
います。また、第8波以降どのくらい入院が必要な患者が出るか分かりませ
んが出来る限り柔軟に対応していきたいと思います。

外部委員Q：救急で運ばれてきた方は新型コロナウイルスの検査を行ってからの診療とな
る流れになるのでしょうか。

当院委員A：発熱や呼吸器症状がメインの方については最初に検査を行います。また、家族
や施設等で新型コロナウイルス陽性の方がいるような場合も先に検査を行っ
ています。

外部委員Q：インフルエンザの同時流行について、まず新型コロナウイルスの検査を行い、
その後インフルエンザの検査をするなどどのような態勢を考えられています
でしょうか。

当院委員A：新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行については、新型コロナウイ
ルスの抗原定量検査と同じメーカーでインフルエンザ抗原試薬を用意して
おり、同じ検体にて両方の検査を行うこともできるように準備しています。

外部委員Q：感染された方の9月15日以降の勝山市の新型コロナウイルスの人数の情報
が出なくなりましたがなぜ出なくなったのかもし分かりましたら教えていた
だけないでしょうか。

外部委員A：かなりの新型コロナウイルス患者が出ており調査の簡略化を行い、年齢別の人
数の公表に全国的に変更となりました。これは、初期のころは感染者の人数が
少なかったため、予防の観点からどこの地域にどれくらいの人数がいるか
という情報が重要でした。しかしながら、8月9月は全国一律に患者数が多い状
況となり、感染の蔓延予防上、自治体ごとの人数は必要が無いとは言えな
いですが重要では無く、むしろどの世代に多いのかという情報の方が重要
という判断のもと、公表の仕方が変更されました。

外部委員Q：情報が入ってこないことで地域でのイベントを開催する際に都合が悪いように思います。

外部委員A：時期によって状況も変わってこられるかと思しますので、保健所に相談いただければ最良の方法で開催できるようにご協力させていただきます。

3. 地域関連事業

市民公開講座の開催、糖尿病教室の開催、附属老健地域貢献活動「お買い物支援」、令和4年度福井県総合防災訓練について、今年度の活動内容を説明、また、勝山市広報に掲載している当院医師によるJCHOコラムの案内を行う。

【ご質問】

外部委員Q：先日の豪雨の際、患者様が搬送されたか把握されてますでしょうか。

当院委員A：患者様が直接搬送されたとは聞いていませんが、附属の訪問看護ステーションの職員が訪問中に川が氾濫したため、しばらく戻れないことがありました。また、訪問看護ステーション、介護老人保健施設や居宅介護支援事業所では受け持ちの利用者の方の安否確認を行いました。

4. 意見交換

【ご意見】

保育園の親御さんとの市長と語る会の中で出た意見について、新型コロナ、小児科に関することについて情報共有をさせていただきます。7月8月の子供を中心とした新型コロナの感染で、病院にかかれず、病気が確定できず非常に困りなんとかして欲しいという意見がありました。市内の小児科の先生の高齢化で10年後が心配であり、頼みの綱が福井勝山総合病院で、小児科を毎日の診療に戻していただきたいとの意見がありました。

→これはすごく難しい問題で当院だけで解決できることではなく、医師派遣の問題になります。現在当院の常勤の小児科医師が育休中とのこともあり、福井大学より非常勤の医師を派遣してもらっている状況になります。福井大学でも小児科医が少ない中、非常勤で派遣してもらい、たくさんの患者や新型コロナの診療を行ってもらっております。それでも市民の方からすると不十分と思われそうですが、当院、市、県から福井大学へお願いしての現状でございます。また今後も行政の方とも協力しながら出来る限りの努力をしていきたいと思しますのでご協力よろしく願います。

【ご意見】

要望になりますが、高齢者や認知症の方などいろんな方が入院されている中で、その中に入院すると匂いや騒音があるという意見があり改善していただけたらと思います。

→病気によっては、声が出てしまう方がおられ、入院される一部の方には我慢をさせていただいているという現状があります。病院の構造上、個室が少ないということもあり、出来るだけそういうことがないように病室を決めておりますが致し方ない時があることはご理解いただきたいと思います。声を出される患者様がいて眠れないということについて、声を出される患者様については、部屋をかえる等の工夫をしております。匂いの問題については看護師、看護補助者が協力して各部屋の掃除や換気は行っておりますが、また気を付けてまいります。